

令和5年度3月期

総合学力試験
標準的参考文献

神戸大学大学院
経営学研究科

第1群

経営管理

◇ テーマ	イントロダクション・科学的管理論
◇ 必読文献	Taylor, F. W. (1911) <i>The Principles of Scientific Management</i> , Harper & Brothers. (有賀裕子訳『新訳 科学的管理法：マネジメントの原点』ダイヤモンド社、2009年。)
◇ 参考文献	上野陽一 (1933)「科学的管理法 特別委員会における供述 (1912)」(上野陽一訳『科学的管理法 (新版)』産能大学出版部、1969年、337-355頁。)

◇ テーマ	プロテスタントの宗教倫理と官僚制
◇ 必読文献	Weber, M. (1920) “Die protestantische Ethik und der Geist des Kapitalismus,” <i>Gesammelte Aufsätze zur Religionssoziologie I</i> , J.C.B. Mohr (中山元訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』日経BP社、2010年。) Weber, M. (1921-22) <i>Wirtschaft und Gesellschaft, Grundriss der verstehenden Soziologie. I</i> , §3.1-§3.5 (世良晃志郎訳『支配の諸類型』創文社、1970年、第3章第1節-第3章第5節。)
◇ 参考文献	Weber, M. (1956) <i>Wirtschaft und Gesellschaft, Grundriss der verstehenden Soziologie</i> , vierte, neu herausgegebene Auflage, besorgt von Winchelmann, J., J.C.B. Mohr, § 9.1- § 9.3 (世良晃志朗訳『支配の社会学 1』創文社、1960年、第9章第1節-第9章第3節。) 大塚久雄編著 (1965)『マックス・ヴェーバー研究 生誕百年記念シンポジウム』東京大学出版会、9-38頁および303-332頁。 Wren, D. A. (1994) <i>The Evolution of Management Thought 4th Edition</i> , John Wiley & Sons, Chapter 2. (佐々木恒夫訳『マネジメント思想の進化』文眞堂、2003年、第2章。)

◇ テーマ	機能主義的組織論
◇ 必読文献	Gouldner, Alvin W. (1954) <i>Patterns of Industrial Bureaucracy</i> , Glencoe, Ill: The Free Press, Introduction, Part 4 (岡本秀昭・塩原勉訳『産業における官僚制』ダイヤモンド社、1963年、序章および第4部。) Merton, R. K. (1940) “Bureaucratic structure and personality,” <i>Social Forces</i> , 18(4), pp. 560-568 (森東吾・森好夫・金沢実・中島竜太郎訳「ビューロクラシーの構造とパーソナリティ」『社会理論と社会構造』みすず書房、1961年、179-189頁。) Selznick, P. (1947) <i>Leadership in Administration</i> , Harper and Row, Chapter 1-Chapter 2 (北野利信訳『新訳 組織とリーダーシップ』ダイヤモンド社、1970年、第1章-第2章)。
◇ 参考文献	Merton, Robert K. (1957) <i>Social Theory and Social Structure: Toward the Codification of Theory and Research, Revised Edition</i> , Glencoe, Ill: The Free Press, Chapter 1 (森東吾・森好夫・金沢実・中島竜太郎訳『社会理論と社会構造』みすず書房、1961年、第1章)。

◇ テーマ	人間関係論
◇ 必読文献	大橋昭一・竹林浩志 (2008) 『ホーソン実験の研究』 同文館出版.第1章～第6章.
◇ 参考文献	Mayo, E. (1945) <i>The Social Problems of an Industrial Civilization</i> , Andover Press. (藤田敬三・名和統一訳『アメリカ文明と労働』有斐閣、1951年.) F. J. Roethlisberger and W. J. Dickson. (1939/2017) <i>Management and the Worker: An Account of a Research Program Conducted by the Western Electric Company, Hawthorne Works, Chicago (Classic Reprint)</i> , Forgotten Books.

◇ テーマ	組織と経営
◇ 必読文献	Barnard, C. I. (1938) <i>The Functions of the Executive</i> , Harvard University Press(山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年).
◇ 参考文献	庭本佳和(2006)『バーナード経営学の展開—意味と生命を求めて—』文眞堂。 藤井一弘編著(2011)『経営学史叢書VI バーナード』文眞堂。

◇ テーマ	モチベーション論
◇ 必読文献	Latham, G. (2007) <i>Work Motivation: History, Theory, Research and Practice</i> , SAGE Publication, Inc. (依田卓巳訳・金井壽宏監訳『ワーク・モチベーション』NTT出版、2009年。)
◇ 参考文献	なし

◇ テーマ	リーダーシップ論
◇ 必読文献	金井壽宏(1991)『変革型ミドルの探求: 戦略・革新指向の管理者行動』白桃書房.第2～4章.
◇ 参考文献	Yukl, G. (2012) "Effective Leadership Behavior: What We Know and What Questions Need More Attention," <i>Academy of Management Perspectives</i> , Vol. 26, No. 4, pp. 66-85. 小野善生(2016)『フォロワーが語るリーダーシップ: 認められるリーダーの研究』有斐閣. 第3～5章 George, C. B., McCauley, K. D., Gardner, W. L., and Guler, C. E. (2016) "A meta-analytic review of authentic and transformational leadership: A test for redundancy," <i>Leadership Quarterly</i> , Vol. 27, No. 4, pp. 634-652.

◇ テーマ	組織心理学
◇ 必読文献	Schein, E. H. (1980) <i>Organizational Psychology, 3rd edition</i> , Prentice-Hall, Inc. (松井賚夫訳『新訂 現代心理学入門 組織心理学 (原書第3版)』岩波書店、1981年、第1章、第2章) Schein, E. H. (1978) <i>Career Dynamics: Matching Individual and Organizational Needs</i> , Addison-Wesley Publishing Company, Inc. (二村敏子・三善勝代訳『キャリア・ダイナミクス』白桃書房、1991年)
◇ 参考文献	Schein, E. H. (1985). <i>Organizational Culture and Leadership</i> , Jossey-Bass Inc, (清水紀彦・浜田幸雄訳『組織文化とリーダーシップ リーダーは文化をどう変

	<p>革するか』ダイヤモンド社, 1989年).</p> <p>Schein, E. H. (1999). <i>Process consultation revisited: Building the helping relationship</i>, Addison-Wesley Longman. (稲葉元吉・尾川丈一訳『プロセスコンサルティング 援助関係を築くこと』白桃書房, 2002年).</p> <p>Schein, E. H. (2015). Organizational psychology then and now: Some observations, <i>Annual Review of Organizational Psychology and Organizational Behavior</i>, 2, pp. 1-19.</p>
--	--

◇ テーマ	新制度派組織の経済学
◇ 必読文献	Douma, S. and H. Schreuder (2017) <i>Economic Approaches to Organization</i> , 6 th edition, Pearson, 8章、9章、12章.
◇ 参考文献	<p>Williamson, O. E. (1996) <i>The Mechanisms of Governance</i>, Oxford University Press.</p> <p>Jensen, M.C. and W.H. Meckling (1976) "Theory of the Firm: Managerial Behavior, Agency Costs and Ownership Structure," <i>Journal of Financial Economics</i>, 3(4): pp.305-360.</p> <p>Nelson, R.R. and S.G. Winter (1985) <i>An Evolutionary Theory of Economic Change</i>, Harvard University Press.</p> <p>Hannan, M.T. and J. Freeman (1993) <i>Organizational Ecology</i>, Harvard University Press.</p>

◇ テーマ	意思決定論
◇ 必読文献	<p>Williamson, O. E. (1975) <i>Markets and Hierarchies, Analysis and Antitrust Implications: A Study in the Economics of Internal Organization</i>, The Free Press. (浅沼万里・岩崎晃訳『市場と企業組織』日本評論社、1980年、16-19頁および35-69頁および417-423頁。)</p> <p>Simon, H. A. (1997) <i>Administrative Behavior: A Study of Decision-Making Processes in Administrative Organizations</i>, 4th edition, The Free Press. (二村敏子・桑田耕太郎・高尾義明・西脇暢子・高柳美香訳『新版 経営行動：経営組織における意思決定過程の研究』ダイヤモンド社、2009年、1-22頁および111-134頁および143-183頁。)</p> <p>March, J. G. and Simon, H. A. (1958) <i>Organizations</i>, Wiley. (土屋守章訳『オーガニゼーションズ』ダイヤモンド社、1977年、207-261頁。)</p>
◇ 参考文献	なし

◇ テーマ	コンティンジェンシー理論
◇ 必読文献	<p>Woodward, J. (1965) <i>Industrial Organization: Theory and Practice</i>, Oxford University Press. (矢島鈞次・中村寿雄訳『新しい企業組織：原点回帰の経営学』日本能率協会、1970年、3-97頁および289-310頁。)</p> <p>Woodward, J. (ed.) (1970) <i>Industrial Organization: Behavior and Control</i>, Oxford University Press. (都筑栄・風間禎三郎・宮城浩祐訳『技術と組織行動：サウス・エセックス研究 その後の展開』日本能率協会、1971年、3-47頁および195-236頁。)</p>

	占部都美(編) (1979) 『組織のコンティンジェンシー理論』 白桃書房、219-256 頁。 Burns, T., & Stalker, G. M. (1961). The management of innovation. London, UK: Tavistock Publications.
◇参考文献	加護野忠男 (1980) 『経営組織の環境適応』 白桃書房。 加護野忠男・野中郁次郎・榊原清則・奥村昭博 (1983) 『日米企業の経営比較：戦略的環境適応の理論』 日本経済新聞社。 野中郁次郎 (2014) 『増補新装版 組織と市場：組織の環境的合理論』 千倉書房。 野中郁次郎・加護野忠男・小松陽一・奥村昭博・坂下昭宣 (2013) 『新装版 組織現象の理論と測定』 千倉書房。 *参考文献はいずれも我国の経営学のなかで金字塔と言われる研究成果なので、新装版が出版されているものは入手しておくことを勧めます。

◇テーマ	経営戦略論
◇必読文献	Ansoff, H. I. (1965) Corporate Strategy: An Analytic Approach to business policy for growth and Expansion, New York: McGraw-Hill. (広田寿亮訳 『企業戦略論』 産業能率大学出版部、1969 年、1-36 頁および 128-152 頁。) Mintzberg, H. (1994) The Rise and Fall of Strategic Planning, New York: Prentice Hall. (中村元一監訳、黒田哲彦・小高照男・崔大龍訳 『「戦略計画」 創造的破壊の時代』 産業大学出版部、1997 年、51-89 頁および 245-338 頁。) Johnson, G., Langley, A., Melin, L. and Whittington, R. (2007) Strategy as Practice: Research Directions and Resources, Cambridge: Cambridge University Press. (高橋正泰監訳、宇田川元一・高井俊次・間嶋崇・歌代豊訳 『実践としての戦略：新たなパースペクティブの展開』 文眞堂、2012 年、3-38 頁および 283-302 頁。)
◇参考文献	占部都美・中橋国蔵 (1968) 『戦略的経営計画』 白桃書房。

◇テーマ	制度派組織論
◇必読文献	桑田耕太郎・松嶋登・高橋勅徳 (編) (2015) 『制度的企業家』 ナカニシヤ出版。(近刊)
◇参考文献	なし

◇テーマ	企業家研究
◇必読文献	Schumpeter, J.A(1926) <i>Theorie der Wirtschaftlichen Entwicklung:eine Untersuchung ube Unternehmergewinn, Kapital, Kredit, Zins und den Konjunkturzyklus</i> , 2nd revised ed.,Leipzig: Duncker and Humblot (塩野谷祐一・中山伊知郎・東畑精一訳 『経済発展の理論：企業者利潤・資本・信用・利子および景気回転に関する一研究 上巻・下巻』 岩波文庫,1977 年). Steyaert, C. (2007). ‘Entrepreneurship’ as a conceptual attractor? A review of process theories in 20 years of entrepreneurship studies. <i>Entrepreneurship and regional development</i> , 19(6), 453-477. Dey, P., & Steyaert. C.(2016). Rethinking the space of ethics in social entrepreneurship: Power, subjectivity, and practices of freedom. <i>Journal of Business Ethics</i> 133(4), 627-641.

	桑田耕太郎・松嶋登・高橋勅徳編『制度的企業家』（「制度的企業家のディスコース」および「企業家語りに潜むビッグ・ストーリー：企業家を演じる経営者のナラティブ・アプローチ」），ナカニシヤ出版.
◇参考文献	吉田昌幸（2007）「企業家競争における市場と企業の動的関係：シュンペーターとカーズナーの企業家競争論の検討」『社会・経済システム』第28巻，115-128頁. 高橋勅徳・木村隆之・石黒督朗（2015）『ソーシャル・イノベーションを理論化する：切り拓かれる社会企業家の新たな実践』文眞堂.

経営制度

- (1) 上林憲雄・平野光俊編著『日本の人事システム－その伝統と革新－』同文館出版，2019年。
- (2) 上林憲雄ほか『経験から学ぶ人的資源管理（新版）』有斐閣，2018年。
- (3) 上林憲雄 編著『ベーシックプラス人的資源管理』中央経済社，2016年，第3章，第4章，第7章。
- (4) 平野光俊・江夏幾多郎『人事管理一人と企業、ともに生きるために』有斐閣ストゥディア，2018年。
- (5) 岡崎哲二『コア・テキスト経済史 増補版』新世社，2016年，第5章，第6章。
- (6) フランコ・アマトリーノ/アンドレア・コリー（西村成弘・伊藤健市訳）『ビジネス・ヒストリー：グローバル企業誕生への道程』ミネルヴァ書房，2014年。
- (7) 鈴木良隆・大東英佑・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣，2004年。
- (8) 藤本隆宏『生産マネジメント入門Ⅰ』日本経済新聞出版社，2001年，第3章。
- (9) 藤本隆宏・西口敏宏・伊藤秀史編『サプライヤーシステム』有斐閣，1998年。
- (10) 原拓志・宮尾学編著『ベーシックプラス技術経営』中央経済社，2017年，第7章，第9章～第11章。
- (11) 藤本隆宏・クラーク K. B. 『【増補版】製品開発力—自動車産業の「組織能力」と「競争力」の研究』ダイヤモンド社，2009年。

決定分析

- (1) Kreps, D., A Course in Microeconomic Theory, Princeton University Press, 1990, Chapter 3, 4, 11, 12, Appendix Two
- (2) Tadelis, S., Game Theory, Princeton University Press, 2013.
- (3) ギボンズ「経済学のためのゲーム理論入門」岩波書店，2020年，第3章
- (4) Maschler, M., Solan, E., and Zamir, S., Game Theory, Second Edition, Cambridge University Press, 2020, Chapter 3, 7.

財務会計

- (1) 桜井久勝『財務会計講義（第22版）』中央経済社，2021年。
- (2) 佐藤信彦・河崎照行・齋藤真哉・柴健次・高須教夫・松本敏史（編著）『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ（第14版）—基本論点編』中央経済社，2021年。
- (3) 佐藤信彦・河崎照行・齋藤真哉・柴健次・高須教夫・松本敏史（編著）『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ（第14版）—応用論点編』中央経済社，2021年。
あるいは、これらと同等の内容を含む財務会計・財務諸表論の教科書

会計制度

- (1) 鈴木一水『税務会計分析—税務計画と税務計算の統合—』森山書店 2013年。
- (2) 橋本尚・山田善隆[2022]『IFRS 会計学基本テキスト（第7版）』中央経済社，第2章第3-6

節, 第 3 章第 2, 4, 5, 6, 9, 11, 13, 14, 15 節。

- (3) 新日本有限責任監査法人 河野明史・腰原茂弘・田邊朋子編著[2016]『完全比較 国際会計基準と日本基準 (第 3 版)』清文社, 第 4-5 章, 第 9-11 章, 第 13 章, 第 16-22 章, 第 25-28 章, 第 39 章。
- (4) 企業会計審議会「監査基準(2020 年 11 月改訂)」「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準 (2019 年 12 月改訂)」「四半期レビュー基準(2019 年 9 月改訂)」「監査における不正リスク対応基準(2013 年 3 月)」「監査に関する品質管理基準(2021 年 11 月)」及びこれらの前文
- (5) 伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏『ベーシック監査論(八訂版)』同文館出版 2019 年。

管 理 会 計

- (1) Datar, S. M. and M. V. Rajan, 2017. Horngren's Cost Accounting :A Managerial Emphasis, Global Edition (16th Edition), Pearson Education Limited. (ISBN-10: 1292211547)
- (2) Merchant, K and W. Van der Stede, 2017. Management Control Systems 4th Edition (4th Edition), Pearson. (ISBN-10: 1292110554)
- (3) Anthony, R. N., V. Govindarajan, F. G. H. Hartmann, k. Kraus, and G. Nilsson, 2014. Management Control Systems (European Edition), McGraw Hill Higher Education, UK 版. (ISBN-10: 0077133269)

マ ー ケ テ ィ ン グ

- (1) 高嶋克義 『現代商業学(新版)』有斐閣, 2012 年
- (2) 高嶋克義 『現代マーケティング論』有斐閣, 2008 年
- (3) 鈴木安昭・田村正紀 『商業論』有斐閣, 1980 年, 第 2 章, 第 5 章
- (4) 丸山雅祥 『日本市場の競争構造』創文社, 1992 年, 第 2 章
- (5) 風呂勉 『マーケティング・チャネル行動論』千倉書房, 1968 年, 第 4 章
- (6) 高嶋克義 『マーケティング・チャネル組織論』千倉書房, 1994 年, 第 1 章, 第 2 章
- (7) 高嶋克義・南知恵子 『生産財マーケティング』有斐閣, 2006 年, 第 6 章
- (8) 田村正紀 『マーケティング行動体系論』千倉書房, 1971 年, 第 1 章, 第 2 章、第 4 章
- (9) 池尾恭一他『マーケティング』有斐閣 New Liberal Arts Selection, 2010 年, 第 4 章, 第 6 章
- (10) 栗木 契 『リフレクティブ・フロー』白桃書房, 2003 年, 第 3 章
- (11) 小川 進 『イノベーションの発生論理』千倉書房, 2000 年, 第 1 章
- (12) 石井淳蔵 『マーケティングの神話』岩波現代文庫, 2004 年, 第 6 章
- (13) 南知恵子 『リレーションシップ・マーケティング』千倉書房, 2005 年, 第 1 章, 第 5 章
- (14) 黄 リン 『新興市場戦略論』千倉書房, 2003 年, 第 2 章

フ ェ イ ナ ン ス

Danthine, J., and Donaldson, J. B., Intermediate Financial Theory (3rd Edition), Academic Press, 2014, Chapter 1~14.

市 場 経 済 分 析

- (1) Varian, H. R., Microeconomic Analysis (3rd ed.), Norton, 1992.
- (2) 奥野正寛ほか、『ミクロ経済学演習 第2版』、東京大学出版会、2018年

第2群

数学的方法論

- (1) 西村和雄『経済数学早わかり』2・3・4章（日本評論社），1982年。
- (2) 永田良、田中久稔『経済数学』3-9章（培風館），2012年。
- (3) A. C. チャン、K. ウェインライト（著），小田正雄、高森寛、森崎初男、森平爽一郎（翻訳）『現代経済学の数学基礎』[第4版]（上）（下）4・5・7・8・9・11・12章，（シーエービー出版），2010年。
- (4) Rangarajan Sundaram, 『A First Course in Optimization Theory』Chapter1・2・4・5・7・8（Cambridge University Press），1996.

統計的方法論

久保川達也、国友直人（2016）『統計学』東京大学出版会 14章を除く。

定性的方法論

◇テーマ	イントロダクション・社会研究方法の基礎
◇必読文献	・ Bernard, H. R. (2013), <i>Social Research Methods: Qualitative and Quantitative Approaches</i> , 2nd ed., Sage, Chs. 1-3. (特に Chapters 1-2)
◇参考文献	・ 戸田山和久『科学哲学の冒険－サイエンスの目的と方法をさぐる』NHK ブックス。 ・ Bryman, A. (2016), <i>Social Research Methods</i> , Oxford UP, Ch. 2.

◇テーマ	実証主義的パースペクティブ
◇必読文献	・ Hage, J. (1972) <i>Techniques and Problems of Theory Construction in Sociology</i> , John Wiley & Sons. (小松陽一・野中郁次郎訳『理論構築の方法』白桃書房、1978年。) 絶版につき配布、第1-4章。
◇参考文献	・ 服部泰宏(2020)『組織行動論の考え方・使い方』有斐閣. 第3章, 第4章. ・ 伊勢田哲治 (2003)『疑似科学と科学の哲学』名古屋大学出版, 第1章, 第2章, pp. 493-530. ・ M. ウェーバー(1998)『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』岩波文庫 ・ 三苦利幸(2009)『「価値自由」論の系譜：戦後ヴェーバー研究の展開と現代』『社会文化研究所紀要』第63号, pp. 19-42.

◇テーマ	解釈主義的パースペクティブ
◇必読文献	・ Jones, P, Bradbury, L., & Le Boutillier, S. (2011). <i>Introducing Social Social Theory</i> (2nded.). Cambridge, UK: Polity. Chapter 5 Interpretive Socolology: Action Theories (pp. 104-124).
◇参考文献	・ C. ギャーツ(1987)『文化の解釈学 I』岩波現代選書, 3-56 頁 ・ 石井淳蔵(2004)『マーケティングの神話』岩波文庫.

◇テーマ	構造主義的パースペクティブ
◇必読文献	・ 橋爪大三郎(1988)『はじめての構造主義』講談社現代新書。※要購入 ・ 渡辺二郎(1994)『構造と解釈』ちくま学芸文庫。※要購入、第1、2、3、5章。 ・ 内田樹(2002)『寝ながら学べる構造主義』文春新書。※要購入

◇参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ M フーコー(1977)『監獄の誕生』新潮社。 ・ M フーコー(2000)『言葉と物』新潮社。 ・ M フーコー(2006)『知の考古学』河出書房新社。
-------	---

◇ テーマ	事例研究方法論 1
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栗木契 (2021)「事例に学ぶ知識獲得の有用性」『プレ MBA の知的武装』中央経済社、第 3 章。
◇参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ C.M. クリステンセン、M.E. レイナー(2004)「よい経営理論、悪い経営理論」、『ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス・レビュー』May。 ・ R. イン (1995)『ケース・スタディの方法』千倉書房。 ・ 井上達彦(2014)『ブラックスワンの経営学』日経 BP 社。 ・ 栗木契 (2012)「マーケティング・リサーチの罠」『マーケティング・コンセプトを問い直す』有斐閣、第 7 章。 ・ 田村正紀 (2006)『リサーチ・デザイン』白桃書房。

◇ テーマ	事例研究方法論 2
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加護野忠男(2014)「顧客志向を高める 3 つの戦略」、『一橋ビジネスレビュー』SPR (特に 11 頁左、最初の段落(「本社が神戸市にある」から始まる段落)。 ・ 栗木契 (2021)「医療機器のシスメックスが『試薬で稼ぐ』高収益ビジネスに辿り着いた理由」ダイヤモンド・オンライン、https://diamond.jp/articles/-/262613?fbclid=IwAR1kRvkzGCPxQcdEe4x14ffUEjk6UALdethYeV07MhkMXVFqNe0-uGdvWpk。 ・ 延岡健太郎・栗木契・藤井誠(2014)「シスメックス」、『一橋ビジネスレビュー』SPR。
◇参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ G. アリソン・F. ゼリコウ(2016)『決定の本質・第 2 版』日経 BP クラシックス ・ G. Fisher (2012) "Effectuation, Causation, and Bricolage," <i>Entrepreneurship Theory and Practice</i> September

◇ テーマ	歴史的方法論 1
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ カルロ・マリア・チポッラ (2001)『経済史への招待：歴史学と経済学のはざまへ』国文社、第 1-6 章。
◇参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ E. H. カー(1962)『歴史とは何か』岩波書店 (岩波新書)。

◇ テーマ	歴史的方法論 2
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ N. S. B. Gras, "Business History," <i>Economic History Review</i>, Vol. 4, No. 4, pp. 385-398. ・ アルフレッド D. チャンドラー, Jr. (著), 有賀裕子 (訳)『組織は戦略に従う』, ダイヤモンド社, 2004 (原著: Alfred D. Chandler, Jr., <i>Strategy and Structure</i>, 1962.), 序, 第 1 章。 ・ アルフレッド D. チャンドラー, Jr. (著), 鳥羽欽一郎, 小林袈裟治 (訳)『経営者の時代: アメリカ産業における近代企業の成立』, 東洋経済新報社, 1979 (原著: Alfred D. Chandler, Jr., <i>Visible Hand: The Managerial Revolution in American Business</i>, Berknap Pr., 1970), 序論。
◇参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ レズリー・ハンナ, 和田一夫『見えざる手の反逆: チャンドラー学派批判』, 有斐閣, 2001 年。 ・ Philip Scranton and Patrick Friedenson, <i>Reimagining Business History</i>, Johns Hopkins UP,

	2013.
--	-------

◇ テーマ	グラウンデッドセオリー・アプローチ
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ K. シャーマズ(2020)『グラウンデッド・セオリーの構築：社会構成主義からの挑戦 [第2版]』ナカニシヤ出版 ・ B.G. グレイザー・A.L. ストラウス(1996)『データ対話型理論の発見：調査からいかに理論をうみだすか』新曜社
◇参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ A. ストラウス・J. コービン(2012)『質的研究の基礎：グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順(第3版)』医学書院

◇ テーマ	サーベイ・リサーチ方法論
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 盛山和夫 (2004)『社会調査法入門』有斐閣ブックス,ISBN:978-4641183056, 4章 (p.61-77), 5章 (p.79-94), 7章 (p.115-139) ・ 田村正紀 (2006)『リサーチ・デザイン』白桃書房,ISBN: 978-4561264576, 2章 (p.25-48)
◇参考文献	なし

◇ テーマ	フィールド・リサーチ方法論
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Greenwood, D. "Introduction to Action Research, <i>Social Research for Social Change, 2nd ed.</i>, SAGE Publications, 2007.の pp. 3-34, 76-88. ・ 三矢裕 (2007)「日次決算導入がもたらす組織行動への影響：株式会社ドンクにおけるアクションリサーチ」『原価計算研究』第31巻第1号、1-13頁。
◇参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三矢裕 (2002)「管理会計システムの導入研究の方法論：トライアンギュレーションとアクションリサーチの有効性」『会計』第161巻第5号、96-109頁。 ・ Kaplan, R. S. (1998), Innovation Action Research: Creating New Management Theory and Practice, <i>Journal of Management Accounting Research</i>, 10(1) pp.89-118.

◇ テーマ	文献レビューの方法
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服部泰宏 (2020)「文献レビューの書き方に関するレビュー：過去の要約、統合、批判から未来を紡ぎ出す考え方と技術の整理」『国民経済雑誌』222(5), 65-89. ・ 服部泰宏 (2013)「心理的契約研究の過去・現在・未来: 50年にわたる研究の到達点と課題」組織学会編『組織論レビューI』白桃書房.
◇参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織学会編 (2013) 『組織論レビューI』白桃書房. ・ 組織学会編 (2013) 『組織論レビューII』白桃書房.

◇ テーマ	定性的研究と研究論文
◇必読文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Julie Battilana and Silvia Dorado. (2010), "Building Sustainable Hybrid Organizations: The Case of Commercial Microfinance Organizations", <i>Academy of Management Journal</i>, Vol. 53, No. 6, pp. 1419-1440.
◇参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Bryman, A. (2016), <i>Social Research Methods</i>, 5th ed., Oxford University Press, Chapter 17.